

巨木が出迎える 青い森林業アカデミー研修生による保護林調査

心地よい秋晴れとなった10月14日、青森県南津軽郡大鰐町にある「大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林」で「青い森林業アカデミー」の天然更新現場調査が行われました。

青い森林業アカデミーは地域林業の中核的担い手となる現場技術者を育成する1年間の研修を行っており、その一環として本実習が行われています（[概要 - 青い森林業アカデミー](#)）。今回調査した保護林とは、原生的な天然林などを保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護などを目的としている国有林野のことです（[保護林：林野庁](#)）。その中で、「大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林」は大正5年に設定された300年近いスギ、ヒバが混交する珍しい林となっています。

設定された理由など森林の概要を簡単に説明した後、巨木が立ち並ぶ林内へ入りました。研修生は普段見ることのないスギとヒバの巨木に驚いているようでした。一般的な林業では40～50年で伐採するため、300年近い森林を目にする機会がないためです。道中ひらけた場所で再度森林の概要を説明しました。高木は樹高30m以上であることや胸高直径（幹の太さ）が100cm～150cmであることです。また、陰樹であるヒバの稚樹がスギと比べて多く、今後はスギが減り、ヒバ林へ遷移すると予想されると説明しました。

歩道を終点近くまで歩くと、大きなスギが2本現れました。この2本の樹高と胸高直径を測りましょうと話す中、研修生は慣れた手つきで道具の準備を進め、バーテックスとブルーメライズという樹高を測る道具で測定をしていました。バーテックスは超音波やレーザーで距離を測り、角度から樹高を算出します。一方、ブルーメライズは測定物から決まった距離を離れて角度から樹高を算出します。

巨木を相手に研修生達は、安全な作業のため、声を掛け合っていました。結果を聞いてみると、バーテックスの結果がブルーメライズの結果よりだいぶ高くなりました。レーザーで距離を測るより実際に距離を測った方が、モニタリング調査の結果に近い値となりました。

実習終了後、研修生の代表から貴重な体験ができたとの感想をいただきました。青森県の林業を担う方々に、保護林という存在をお伝え出来てよかったと思います。この経験を生かして、アカデミー終了後、自然環境や野生生物を考慮した林業に取り組んでいただきたいです。

「大鰐スギ、ヒバ希少個体群保護林」は大鰐町の島田林道にあります。林道入り口からは距離がありますが、興味がある方は**熊対策**をしっかりと行ったうえでスギとヒバの巨木を見にいらしてはいかがでしょうか。

ブルーメライズで測樹する研修生



協力して胸高直径を測る研修生

